

荒浜地区について

荒浜地区は、仙台市の中心部から東南に約3 km離れ、太平洋に面しています。貞山堀を中心に海岸沿いに約800戸の集落がありました。集落を南北に流れる貞山堀は、江戸時代、水運による物流ルートとして仙台藩の財政を支えていた歴史のある運河です。また、荒浜海岸は市内唯一の海水浴場になっていました。

荒浜は慶長年間に、越中大学、但馬掃部、土佐十郎右衛門という落ち武者が開墾を始めたという言い伝えがあります。慶長16年（1611年）の津波で被害を受けましたが、新田開発という藩の政策のもと、人々は塩をかぶった湿地をくわと人力で青々とした水田に変えていきました。また、波が荒く砂浜で港のない漁には不向きな環境でしたが、人々は和船を開発し様々な漁法で漁をしていました。荒浜では半農半漁の生活を営む時期が長く続きました。

1979年から「仙台荒浜ニュータウン」として南西部の原野や畑などが開発され、徐々に都市化も進みました。市街地への通勤者が増え、専門の農漁業者は少なくなりました。それでも荒浜は、海水浴客でにぎわう夏場を除き、自然豊かでのどかな田園地帯という雰囲気でした。



昔の荒浜の街並み





◆創立年月日

明治6年7月10日



浄土寺に建てられていた
「荒浜小学校発祥の地」の石碑

◆校旗

昭和8年3月10日制定



◆校章

荒浜小学校の校章は昭和23年に制定されました。校章のデザインには荒浜の「ア」を簡略化して輪郭を構成し、小学校の「小」と組み合わせて取り入れました。外側は晴れた青空を、右下部分は波を表しています。全体として海岸から眺望する広大無限で、抱擁性、活動性に富む空と海をかたどり、荒浜を表象しています。静かな中にも脈々と躍動する物事の法則を極めようとする態度と、海で鍛える強健な心身の錬磨を表象しています。円形は円満な協力と団結を、小の菱形は自由な伸長進展を象徴しています。



◆校木

荒浜小学校は海に面していて、学区内には松が多く見られました。校地内にも多くの松が見られ、地域住民に愛着のある木でした。また、校歌の歌詞にも「松はみどりの荒浜に」と歌われています。このような理由から、平成5年に荒浜小学校の校木を「松」と制定しました。



◆所在地

〒983-0042 仙台市宮城野区東宮城野5番1号（東宮城野小学校南校舎）

TEL 【校長室】(022) 782-2385 【職員室】(022) 288-5027

FAX (022) 782-2386

URL <http://www2.sendai-c.ed.jp/~arahama/>

e-mail arahama@sendai-c.ed.jp

